

渋沢栄一とまちづくり

市長 米本弥一郎



皆さんは、NHK連続テレビ小説「虎に翼」をご覧になっていますか。

このドラマの中で、主人公の寅子を法律の世界に導く、穂高重親という大学教授が登場します。そのモデルは、東京帝国大学教授・法学部長や最高裁判所判事を歴任した、法学者の穂積重遠だといわれています。

穂積重遠は、新1万円札の肖像となる渋沢栄一の孫にあたる人物です。重遠の母親で、渋沢の長女でもある歌人の穂積歌子が、渋沢と共に旭を訪れていたことを知り、ドラマの登場人物にも親しみを感じています。

「近代日本経済の父」と称される渋沢栄一は、大正7年と昭和3年に旭を訪れました。渋沢が2度訪れた地は珍しいとのことですよ。

大正7年9月に開かれた講演会は「旭町の三翁さんろう」と呼ばれた飯田佐次兵衛らが、まちの振興策や世界情勢

などを語ってもらえたら有益だろうと考えたのがきっかけで、町の有志たちと相談し、商業組合である改進社が主催しました。記録では、渋沢が旭町小学校（現在の中央小）で児童に訓話をし、記念に楠を植樹うえわした後、市民に向けて商業道德しょうぎょうだうとくと題し講演をしたと伝えています。

この当時、町の人々は県立中学校の誘致運動などを展開していました。その後には、旭町を中心とする産業振興を目的とした旭町繁栄政策研究会を発足させています。研究会の主催による町民大会も開かれ、まちを繁栄させるための政策などが活発に議論されたそうです。

渋沢の言葉に触れた旭の人々が、まちづくりへの情熱を燃やしたのでしよう。私も先人たちの熱い想いを心に留め、市民の皆さんと共にまちづくりを進めてまいります。